Shinrin RANGER あきる野

森林レンジャーあきる野新聞

Vol.7
2010 年 12 月号
発行：森林レンジャーあきる野

協働で進める郷土の恵みの森づくり ①

戸倉 日向峰道整備（11/20）

上左 道の整備
上右 倒木の処理
中 倒木の輪切りベンチ
下 日向峰道整備参加者

戸倉の沢戸橋から今熊山、広徳寺方面に向かう道を「日向峰道」といいます。昔、この道は戸倉・小宮・檜原方面から、八王子へ向かう近道として利用されていたそうです。ところどころに石畳の跡を今でも見ることができ、当時は大切にされていた道ということをうかがい知ることができます。現在、この道は、登山者の方々が多く利用しています。ただ、道のあちこちに大きい石が点在し、雨が降ると道が小川のようになるため今回整備することとなりました。

地域住民、サポートレンジャーと共に道の各所に水切りや階段を設置したり、道の上に倒れていたモミの巨木をチェーンソーで切り出したりと一日がかりで作業を実施しました。あきる野市を一望できる丘にはベンチを設置し、散策に適した道となりました。

（佐々木）

協働で進める郷土の恵みの森づくり ②

深沢 大カシ周辺の整備（11/6・12/11）

深沢の自治会館の向かいの山に大きなカシの木があります。大きな石灰岩の上に根を下ろし、山の上から家々を見守っています。「多くの人に大カシの雄大さを見てもらいたい」という地元の方々の意見もあり、大カシ周辺の整備を実施しました。斜面が急勾配なため階段や迂回路を整備し、みんなで大粒の汗をかきながらの作業となりました。ぜひ皆さん深沢の「山抱きの大カシ」をご覧下さい。（佐々木）

上 散策路の整備
下 階段の設置

次世代につなぐ森づくり見学会（11月27日）

秋川は美しい清流として市内を縦断しています。この清流の上流には林業地帯があり、スギ・ヒノキが育っています。広葉樹・針葉樹を問わずに健全に育った森は雨水を貯め、河川への土砂の流出を抑えて清流「秋川」を守っています。

そこで、森と木材利用の現場を見学する見学会を11月27日（土）に実施し11名の参加がありました。

池谷氏の山林の見学

秋川産材モデルハウスの見学

午前中は、養沢の育林家（林業家）の池谷キワ子さんの山林を見学しました。池谷さんは、山林ボランティア創成期から、都市住民の山林ボランティアを受け入れ、育成、指導をしながら、山（森）を守ってきました。また、池谷さんは、森林インストラクターとしても活動をしており、池谷さんが主幹する「東京・森の学校」の仲間の高橋さん、野崎さん2名の協力をえて、山林を案内していただきました。

午後は、武蔵五日市駅の脇にある秋川木材協同組合の多摩産材のモデルハウスを見学し、さらに草花の小野木工の工房を見学しました。小野木工では、地元産材（秋川産材）にこだわっており、イスやテーブルを地元材で作っています。

森と木材製品は車の両輪のような関係で、この2輪がうまく回らなければ持続可能な森づくりが出来ないことを参加者に実感してもらえたと思います。（杉野）

小野木工製作所の見学

隊長の日々 ～ 落合 八幡神社大杉 ～

野外調査で、よく十里木の都営駐車場を利用します。このときも秋川沿いの紅葉スポットなどの調査をしていました。尾根沿いの木々を眺めると、落合集落の裏の尾根にひときわ高くそびえる木立が目に留まります。早速、GPSの地図を頼りに車で星竹林道に入り、「謎の大木」を目指す。車を止めて、徒歩で大木を目指すが、笹藪の上にクズが繁茂しており立ち往生。結局、笹藪の中を四つん這いで獣道を進む。何とか笹藪を抜けると、小さな神社の裏手に出ることができました。表に回ってみると八幡神社ということが判明。綺麗に掃除され、落合からの整備された道（小路）があり、地域の神社として役割を担っていることがうかがわれました。

さて問題の木は、社殿前にそびえるスギで胸高幹周は5.43m、樹高も目視で40～45mもある大木でした。木の大きさを数字で表してもイメージできないので、他の木々と比較すると丁度、大悲願寺の一番大きな杉と同等の大きさといえます。（杉野）